

をとめ
少女たち
あぐち
開口の神の樟の木くすの

わかえ
若枝
さすごと
のびて
行けかし

歌
意

故郷の少女たちよ、あの開口神社の樟の大木から若い枝が
すこやかに伸びていくように成長してほしいものです。

初出「婦人公論」昭和11（1936）年6月号（晶子58歳）

